4-P-10

看護技術における「相互身体性」の有り様 ーハンドマッサージを通してー

藤原 桜¹⁾

尾崎雅子¹⁾ 中村由果理¹⁾ 長尾厚子¹⁾ 鎌田美智子¹⁾

【目的】ハンドマッサージを体験した看護学生 2 名（行為者と受け手）の語りを記述することによって、看護技術における「相互身体性」の有り様を明らかにする。

【方法】研究参加者は看護学科 1 年次学生 2 名。研究参加者には、10 分間のハンドマッサージを実施または、受けてもらった後に、30 分間のインタビューを受けてもらった。得られたデータから「相互身体性」が語られている場面を抽出し、当事者の視線にできるだけ忠実に記述し、「相互身体性」という観点で解釈した。そして、その内容の象徴となることを主題とし『』で示した。

【結果】導き出された主題は『感覚の交差』『感覚の共有』『相手との一体感』『相手をいたわる気持ち』『相手に大切にされている感覚』『個別的な行為』であった。

【考察】『相手との一体感』すなわち自分自身と相手の境界・隔たりがなくなる感覚（相互身体性）は、『感覚の交差』『感覚の共有』などを通して体験されることがわかった。そして、このプロセスを経て体験する『相手をいたわる気持ち』『相手に大切にされている感覚』から『個別的な行為』が創造されることがわかった。

（本研究は、平成 29 年度テーマ別研究成果の一部である。）

1) 保健科学部看護学科